

地域福祉活動事例集



この事例集は、富山市内の地区社会福祉協議会活動の中から、先駆的な活動をいくつか紹介し編集しました。

富山市内には80の地区社会福祉協議会が組織され、今回紹介した以外にもさまざまな活動が行われており、今後も数多くの活動を掲載させていただきたいと考えております。

市社会福祉協議会では、職員の地区担当制や活動助成金の交付など地区社会福祉協議会活動の支援を行っております。

この事例集が、地域福祉活動を進める方々の一助となることを願っています。

社会福祉法人富山市社会福祉協議会

も く じ

1 地区社会福祉協議会の基盤整備事例

- (1) ボランティアスクールの開催 1
 <古里地区社会福祉協議会>
- (2) ボランティア連絡会の活動 3
 <広田校下社会福祉協議会>
- (3) 福祉推進員の設置 5
 <熊野校下社会福祉協議会>
- (4) 支部活動の取り組み 7
 <大沢野南部地区社会福祉協議会>

2 地域でのネットワーク活動事例

- (1) 身守りあんしんカードの作成 9
 <船峯地区社会福祉協議会>
- (2) ふれあい・支え合いマップの作成 12
 <婦中熊野地区社会福祉協議会>
- (3) ふれあいサロンの開催 15
 <上滝地区社会福祉協議会>
- (4) 出前親子サークルの開催 17
 <五福校下社会福祉協議会>

3 地域での福祉情報の収集と提供事例

- (1) 住民アンケート調査の実施 19
 <新保校区社会福祉協議会>
- (2) 地区社会福祉たより「おしやい」の発行 23
 <野積地区社会福祉協議会>

1 地区社会福祉協議会の 基盤整備事例

(1) ボランティアスクールの開催

古里地区社会福祉協議会 会長 大島 勇



<アイマスク体験中>

◇活動の概要

住みなれた地域で安心して暮らすため、お互いが助け合う心を培うボランティア活動を推進するとともに、地域住民が身近に取り組むボランティア活動のきっかけづくりを目的に開催しました。

対象者は、古里地区在住の小学生や個人ボランティアとして古里地区社協に登録できる方。

参加者は30名程度で、全3回の講義に出席した受講者には、修了証を授与しました。

◇活動の開始にあたって苦労したこと

- ◎小・中学生も参加できるようにと、開催時期を夏休み期間中の土曜日に設定したこともあり、各種行事や会場・講師等の関係で日程調整をすること。
- ◎民生委員、福祉推進員、公民館活動推進員およびPTA役員等にも個別にPRするなど参加者を確保すること。

◇活動の進め方（協力者の確保、PRの方法など）

- ◎スクールへの参加に繋げるために、地域住民を対象に「ボランティアとは何をするのか?」、「どんなことをするのか?」などの講演会をスクールの受講者募集時期に合わせて開催しました。
- ◎受講者の募集について、地域住民への周知は、地区の広報紙とチラシを作成し全世帯に配布しました。
- ◎スクール開催にあたり、富山市社協婦中支所と周知方法、講義内容、講師の依頼などを協議しました。



<講義の様子>



<グループ討議>

◇活動上の課題・対応策

- ◎参加者は、民生委員・保健推進員・福祉推進員などの経験者や現職の人が多く、一般住民の参加が少なかったことが課題です。
- ◎地域住民へのボランティア活動の理解を始め、スクールの周知方法や開催時期、内容を検討して、このボランティアスクールも今回限りではなく、今後も開催していきたいです。

<古里地区のデータ>（平成22年10月末住民基本台帳）

人	口：4,334人	世帯数	：1,572世帯
65歳以上人口	：1,000人	高齢化率	：23.07%
14歳以下人口	：565人		
事務局	：市立古里公民館内	TEL	469-2496

(2) ボランティア連絡会の活動

広田校下社会福祉協議会 会長 山地 優



<施設訪問のボランティア活動>

◇活動の概要

少子高齢化、核家族化により住民関係の希薄化が進行し、住みにくい社会になりつつあるため、安心して暮らせる地域づくりが急務となり、そのためには、ボランティア活動の充実が不可欠と考え、まず福祉推進員制度を創設し、要援護者の声かけ・見守り活動を行う住民同志の活動に取り組み、その後、ボランティア活動の啓発促進のため、広田ボランティア連絡会を設立しました。現在の会員数は、個人12人と団体8グループ109人です。また、活動内容は、在宅支援、保育、演芸、児童福祉、除雪・除草・清掃、買物サポートなどです。

◇活動の開始にあたって苦労したこと

- ◎会報や文書の回覧、研修会や講演会を開催し啓発に努めたが、ボランティアを確保すること。
- ◎ボランティア活動希望者と受入れ側と調整すること。
- ◎ボランティアの交通手段を確保すること。

◇活動の進め方（協力者の確保、PRの方法など）

- ◎ボランティア活動への参加の呼びかけの文書を随時全世帯に配布しています。
- ◎地区の会報に、ボランティア活動をシリーズで紹介したり、活動記事を掲載したりして啓発に努めています。
- ◎ボランティア情報パンフレットを随時、全世帯に回覧しています。
- ◎会員の知人・友人を介して、啓発に努めています。



<演芸ボランティア活動>



<在宅訪問活動>

◇活動上の課題・対応策

- ◎自分のできる範囲でのボランティア活動が基本であるが、要望の多いボランティア活動への人材確保が課題です。
- ◎住民にボランティア活動の状況をお知らせして、常にボランティア意識の高揚・啓発に努めていきます。
- ◎誰でもボランティア活動に参加できるように資料を作成し、いつでも相談に応じる体制が必要と考えています。

<広田地区のデータ>（平成22年10月末住民基本台帳）

人	口：9,655人	世	帯	数：3,880世帯	
65歳以上	人口：2,056人	高	齢	化	率：21.29%
14歳以下	人口：1,429人				
事	務	局：広田地区センター内	Tel	451-5601	

(3) 福祉推進員の設置

熊野校下社会福祉協議会 会長 吉野 弘



<研修会の様子>

◇活動の概要

福祉推進員は、各町内から1人とし、100世帯を超える町内は2人を選出してもらい、現在40人の福祉推進員を任期2年で校下社協会長が委嘱しています。

校下が7ブロックに分かれており、ブロックごとに推進員長を選出し、日ごろの活動報告などを行う定例会議を開催しています。

また、推進員長を校下社協の理事とすることになっており、校下社協と連携を図っています。

◇活動の開始にあたって苦労したこと

◎福祉推進員の役割、制度の必要性などを地域の人に、理解してもらうこと。

◎福祉推進員の選出を町内会長に一任していますが、町内会長自身1年任期で、地域のことに無関心な人が多いこともあり、持ち回り感覚の人が多く選出されたこと。

◇活動の進め方（協力者の確保、PRの方法など）

- ◎見守り・声かけなどの安否確認は、近隣住民等の協力が必要であるため、民生委員や福祉推進員が中心となり、積極的に住民へ協力を求めています。
- ◎2ヵ月毎のブロック会議には、地区社協役員、民生委員等が同席し、活動報告、意見交換等を行っています。



<ブロック会議の様子>



<研修会の様子>

◇活動上の課題・対応策

- ◎福祉推進員の役割を把握していない人が多く、定着性に欠け任期満了時に退任する人が多いことです。
- ◎町内会、長寿会、女性の会など関係団体との連携を密にし、校下内の要援護者の実態を伝えるとともに、制度の趣旨・必要性を理解してもらえるように努めています。
- ◎福祉推進員の選出には、地区社協役員や民生委員が町内会長と連携を密にしていきたいです。

<熊野地区のデータ>（平成22年10月末住民基本台帳）

人	口：7,773人	世帯数	：2,753世帯
65歳以上人口	：1,838人	高齢化率	：23.65%
14歳以下人口	：1,175人		
事務局	：協議会役員宅		

(4) 支部活動の取り組み

大沢野南部地区社会福祉協議会 会長 西野満男



<情報連絡会>

◇活動の概要

大沢野南部地区は、発足当初から地域に密着した福祉活動を行うため、町内単位、公民館単位の支部体制（6支部）を取り、それぞれ独自の活動を行っています。支部の活動を取りまとめるのが、事務局であり事務局事業として、支部や自治会等から選出された事務局理事・評議委員を中心に学習会、視察研修、各種イベントへのボランティア参加等を行っています。

◇活動の開始にあたって苦労したこと

- ◎発足当初の事務局三役、特に新会長選出には、旧会長が自らお願いにまわって候補者を探さなければ交代ができなかったが、現在は、支部単位に関係する自治会に選出してもらっているため、事務局三役の選出の苦労はなくなった。
- ◎地区社協の事務所について、昨年まで大沢野健康福祉センター内の団体事務室にあり他団体と同居していてセキュリティなどの問題があっ

たが、今年4月より地区社協単独の事務所を確保し事業展開している。

◇活動の進め方（協力者の確保、PRの方法など）

- ◎事務局主体の事業については、事業ごとに役員を中心に開催案内し参加協力を要請しています。
- ◎広報紙を年2回全戸配布し、実施事業や福祉情報をPRしています。



<広報紙>



<イベントへの参加>

◇活動上の課題・対応策

- ◎事務局三役の選出は、自治会に推薦してもらっている関係から、男性ばかり選出されます（女性の意見が事務局に反映され難い）。自治会長との意見交換会の時に、女性をお願いしているがなかなか難しいです。
- ◎支部活動が活発になるにつれて、事務局から各支部への活動助成金が増加し、毎年、基金の取崩しで対応しているが、今後は活動費の確保が課題です。
- ◎支部単位で事業を行っており、支部間の住民の交流がなく、事務局として昨年からは、全住民を対象とした支部間交流事業を実施しています。

<大沢野南部地区のデータ> (平成22年3月末住民基本台帳)

人	口：4,853人	世	帯	数：1,824世帯	
65歳以上	人口：1,473人	高	齢	化	率：30.35%
14歳以下	人口：491人				
事	務	局	：	協議会役員宅	

2 地域でのネットワーク 活動事例

(1) 身守りあんしんカードの作成

船嶽地区社会福祉協議会 会長 林 邦穂

身 守 り あ ん し ん カ ー ド	
船 嶽 地 区	
姓 名	〒 市 区 町 村 番 地
住 居	電 話 番 号
電 話 番 号	生 年 月 日 (曜 日・天 宗・期 日・卒 年 月 日)
かかっている病気	血 液 型
名 前 (親 類)	電 話 番 号
電 話 番 号	携 帯 電 話
病 状	
病 状	
常 用 して いる 薬	
ア レ ル ギ ー	

この身守りあんしんカードに記載された各情報については、船嶽地区社協が管理し、緊急事態などが発生した場合、救急隊員等で活用することに同意いたします。

年 月 日 氏 名

※お願いとお知らせ

(1) 身守りあんしんカードを一旦提出後に定款事項に変更が
発生した場合はお知らせください。
(2) この身守りあんしんカードをコピーして登録者にお
渡しします。
(3) 身守りあんしんカードに関する連絡先は船嶽地区
社会福祉協議会(船嶽地区社協)です。
電話 (0783)4681-3519【船嶽地区社協】
(4) 緊急時、船嶽地区社協不在の場合は最寄りの
民生委員児童委員にご連絡下さい。

<身守りあんしんカード>

◇活動の概要

病気やけがなどで救急搬送される時、自身の医療情報等が救急隊員に伝えられない事態を想定し、カード化したもので、これにより迅速な対応がとれ、生命の安全が保たれ地域で安心して暮らし続けることを支援するものです。

対象者は、70歳以上のひとり暮らし高齢者、75歳以上の高齢者世帯です。カードには健康保険証の写しを添付し、ハートマークを付けたケースに入れ、冷蔵庫のドアポケットで保管し、冷蔵庫には大きなピンクのハートマークを貼ります。また、入院時に必要なT字帯、洗面用具、タオル、バスタオル、コップ、箸、スリッパ、ティッシュペーパー、筆記用具等を衣装ケースに入れ配布します。カードの登録者名簿は、大沢野消防署に提出します。

◇活動の開始にあたって苦労したこと

◎個々の対象者のプライバシーについての不安に対し、ご理解をいただ

くこと。

◎地域住民の皆さんにご理解とご協力をいただくために、各町内会で説明会を実施したこと。

◇活動の進め方（協力者の確保、PRの方法など）

◎地区社協役員、民生委員児童委員、主任児童委員、各町内会役員等の協力により、身守りあんしんカード作成の対象者を確認し、それぞれ個別に訪問し同意をいただきカード化作業を進めました。



<あんしんカードのケース>



<緊急入院セット>

◇活動上の課題・対応策

◎身守りあんしんカードは、70歳以上のひとり暮らし高齢者、75歳以上の高齢者世帯対象としていますが、家族が勤務のため日中ひとり暮らし・ふたり暮らし高齢者になるため不安であり、身守りあんしんカードの対象にしてほしいとの要望があり、今後個別の対応が必要と考えます。

<船嶽地区のデータ>（平成22年10月末住民基本台帳）

人	口：2,390人	世帯数	：994世帯
65歳以上人口	：689人	高齢化率	：28.83%
14歳以下人口	：186人		
事務局	：協議会役員宅		



船峯地区

みまも

身守りあんしんカード

(登録年月日) 年 月 日 作成

本人	名 <small>ふりがな</small> 前		男・女	年 齡	歳
	住 所	〒			
	電 話 番 号				
	生 年 月 日	明治・大正・昭和・平成	年	月	日
	かかっている病気		血液型	型	
緊急連絡先	名 前 (続 柄)	電 話 番 号	携 帯 電 話		
	①				
	②				
関連機関など	民生・児童委員				
	か かり つ け 医				
	病 歴				
	常用している薬				
	ア レ ル ギ ー				

この身守りあんしんカードに記載された各情報については、船峯地区社協が管理し、緊急事態などが発生した場合、救急隊員等で活用することに同意いたします。

年 月 日

氏 名

印

※お願いとお知らせ

健康保険証(写し)貼りつけ

(1)身守りあんしんカード提出後に記載事項に変更が生じた場合はお知らせください。

(2)この身守りあんしんカードをコピーして登録者にお渡しします。

(3)身守りあんしんカードに関する連絡先は船峯地区社会福祉協議会(船峯地区社協)です。

電話 (076)468-1519 (船峯地区館)

(4)緊急時、船峯地区社協不在の場合は最寄りの民生委員児童委員にご連絡下さい。

(2) ふれあい・支え合いマップの作成

婦中熊野地区社会福祉協議会 会長 増山重保



<地区社協役員による確認>

◇活動の概要

福祉マップは、災害が発生した時に地区内のひとり暮らし高齢者、高齢者夫婦世帯、身障者世帯等を迅速・正確に救援・救済するために活用するものです。

各団体長には婦中熊野地区全体を製本したもの、地区総代には当該地区のみ製本したもの、民生委員には担当エリアのみ製本したものを管理してもらっています。

本福祉マップは、年1回（毎年4月）更新することになっています。

◇活動の開始にあたって苦労したこと

◎安全・安心で住みよい地域づくりという観点では、各団体が独自の事業を展開し、応分の効果を挙げてきたとの自負があったため協力を消極的だったこと。

◎福祉マップのフォーマット・具備すべき内容（個人情報への掘り）等意見の集約を図ること。

◎ひとり暮らし高齢者、高齢者夫婦世帯、身障者世帯等の把握がしづらく、要援護登録者に漏れが発生しているのではとの懸念があったこと。

◇活動の進め方（協力者の確保、PRの方法など）

- ◎地域の弱者救援・救済システム・ネットワーク構築の一点に絞った施策が功を奏し協力が得られました。
- ◎民生委員児童委員の努力で登録者の了解を得て充実した情報内容になっています。
- ◎要援護登録者の確認は、民生委員児童委員の方が限なくエリアを巡回して頂いています。



<支え合いマップ>



<連絡会>

◇活動上の課題・対応策

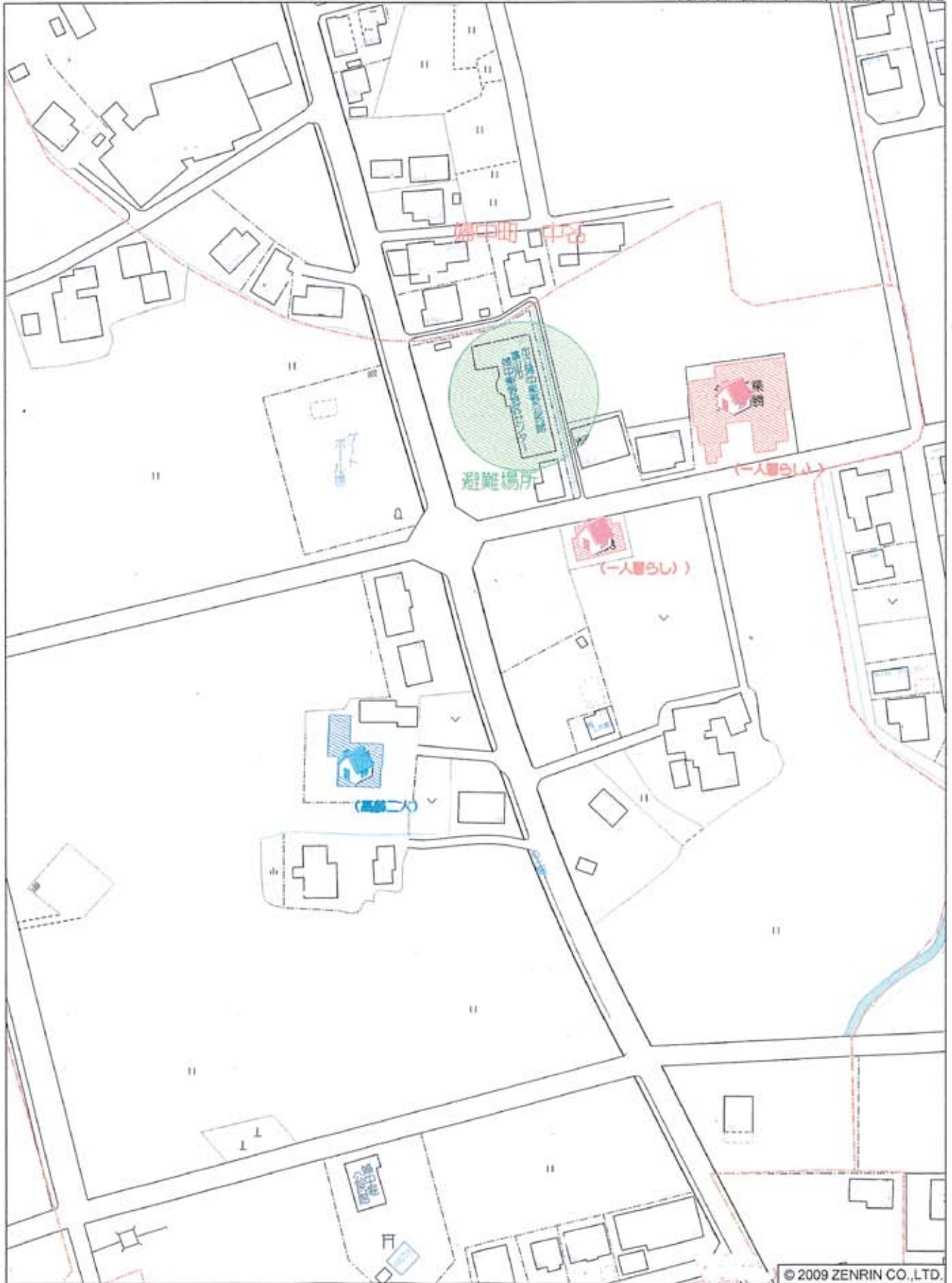
- ◎要援護者の方々が、気軽に申し出て頂ける地域の雰囲気づくりが必要と考えています。
- ◎万一災害が発生した場合、本福祉マップを活用し迅速・正確に救援・救済ができる諸帳票の整備も必要と考えています。

<婦中熊野地区のデータ> (平成22年10月末住民基本台帳)

人	口：3,166人	世	帯	数：1,023世帯	
65歳以上人口：	649人	高	齢	化	率：20.50%
14歳以下人口：	377人				
事	務	局：	市立婦中熊野公民館内	TEL	465-2495

ふれあい・支え合いマップ（例）

利用者：富山市立婦中熊野公民館



縮尺 1 / 1,500 | 45m

(3) ふれあいサロンの開催

上滝地区社会福祉協議会 会長 大野良信



<サロンの様子>

◇活動の概要

平成8年、中滝町内で「よらんまい会」と名前をつけ、年6回サロン活動を開始しました。その後、他町内もそれに習って平成9年からサロン名を付けて活動を開始し、現在10か所のサロンができています。

活動当初は、市社協や保健福祉センターにチラシ作りや行事の手配などの協力をしてもらい、私たちは参加者の呼びかけとお茶の準備をするだけでした。その後、研修を重ねたことで自力がつき、毎月の活動プログラムを自分たちで企画運営できるまでに成長しました。

◇活動の開始にあたって苦労したこと

◎毎回、チラシを全世帯に配布し呼びかけたところ、最初は珍しくて高齢者の方々が大勢集まったが、その後、参加者から「いきいきサロンの意義がわからない」、「行事が多すぎる」との苦情を言われたこと。

◎月1回の活動プログラムを企画する時、その内容を選ぶこと。

◇活動の進め方（協力者の確保、PRの方法など）

- ◎町内の公民館や街かどサロン、保健福祉センターを拠点に年6回～12回開催しています。
- ◎地域住民が主体となって企画運営し、楽しい仲間づくりと健康維持を目標に活動しています。
- ◎年間の行事予定を年度初めに全世帯に配布し、開催日前には興味を引くようなチラシを作成しPRをしています。
- ◎講師は、町内の人材を活かす。（お茶、生花、理学療法士、郷土史家等）



<サロンの様子>



<サロンの様子>

◇活動上の課題・対応策

- ◎活動が長く続くとマンネリ化しているため、新しい活動や行事を取り入れたり、参加したくなるような案内チラシの工夫も必要です。
- ◎興味のある活動には参加されるが、興味のない活動には参加されない。
- ◎仲間づくりの場など、サロンの意義を理解してもらえよう働きかけたり、サロンの楽しさを伝え、友達同士が呼びかけあうようにしています。男性の参加者が少なく、男性に興味のある活動などを取り入れていきたいと考えています。

<上滝地区のデータ>（平成22年10月末住民基本台帳）

人	口：3,263人	世帯数	：1,157世帯
65歳以上人口	：1,000人	高齢化率	：30.65%
14歳以下人口	：379人		
事務局	：市立上滝公民館内	TEL	483-1237

(4) 出前親子サークルの開催

五福校下社会福祉協議会 会長 森田幸雄



◇活動の概要

7年前より、月3回（第2木曜日、第3火曜日、第4木曜日）、3自治公民館を会場に、「出前親子サークル」を開催しています。地元の2つの保育園に協力していただき、保育士の歌に合わせての親子のふれあい、簡単なおもちゃづくり、絵本の読み聞かせなどの指導や看護師の発育相談などをしていただいています。

また、地元のボランティア数人にサークルの運営に協力をいただいています。

生後2・3カ月から就園前の子と親が毎回10組以上集まり、サークルに参加することにより、子育ての不安解消、仲間づくりに大いに寄与しています。

◇活動の開始にあたって苦労したこと

◎出前親子サークルを知ってもらうために、公民館だよりへの掲載、五福児童館やショッピングセンターにポスターの掲示、民生委員児童委員による声かけなどPRする方法。

◇活動の進め方（協力者の確保、PRの方法など）

- ◎サークル時のおもちゃづくりの材料や絵本などの準備は、指導される保育士の方にしていただいています。
- ◎地域でボランティア活動しておられる方や民生委員が保育ボランティアとして、子どもの世話や母親の話し相手をしています。
- ◎参加者の確保のため、保健推進員の「赤ちゃん教室」で、サークルの案内をしてもらっています。その他、参加者等の口コミ、広報紙、ポスターを見て参加されます。



<サークルの様子>



<サークルの様子>

◇活動上の課題・対応策

- ◎母親たちが何を望んでいるのかを知るために、アンケートに協力してもらい、地区社協、保育士、ボランティアが相談して、より良い方向へ持っていけるようにしています。
- ◎運営の協力をしていただけるボランティアを確保するため、口コミや回覧でPRをしています。

<五福地区のデータ>（平成22年10月末住民基本台帳）

人	口：9,588人	世	帯	数：4,583世帯	
65歳以上	人口：1,952人	高	齢	化	率：20.36%
14歳以下	人口：1,151人				
事	務	局：五福地区センター内	TEL	432-6363	

3 地域での福祉情報の 収集と提供事例

(1) 住民アンケート調査の実施

新保校区社会福祉協議会 会長 佐藤春梅



<事前説明会>

◇活動の概要

地域住民の福祉活動に関する意識や福祉ニーズを把握するとともに、今後の地区社協活動をどのように推進していくかの参考とするため、地域住民の方々を対象に、福祉活動に関する住民アンケート調査を平成22年7月に実施しました。

また、今回のアンケート調査結果から市全域と本校区との状況を比較することを考え、昨年、市社協で実施されたアンケート調査の項目に準じるものとししました。

◇活動の開始にあたって苦労したこと

- ◎正確な情報を回答として得るには、どのような方法で実施すればよいか。
- ◎調査結果を分析するには、できるだけ多くの回答が必要なため、回収率を高めるにはどのようにすればよいか。

◎回答者を特定できないように配慮すること。

◇活動の進め方（協力者の確保、PRの方法など）

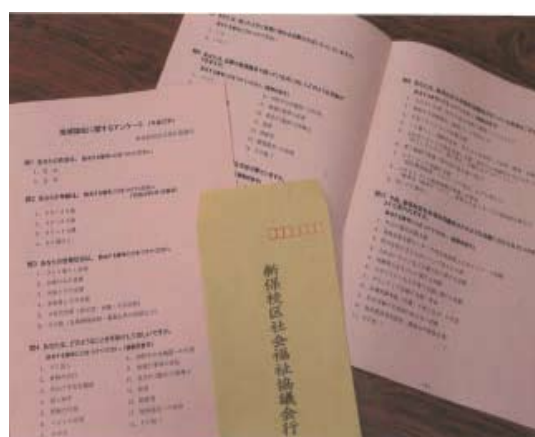
◎各種団体長に対して調査の趣旨を理解してもらい、男性・女性及び各年代から幅広く意見を得られるよう、アンケート調査の事前説明会を開催し配布を依頼しました。

◎回収期間を短めに設定しました。

◎性別、年齢別、家族構成別などのクロス分析を行いました。



<調査票の整理>



<アンケート調査票>

◇活動上の課題・対応策

◎これから新保校区社協の活動として、支援をしてもよいという人と支援を必要としている人のマッチングを行うには、再度、詳細な調査が必要であると感じています。

◎回答の中には、単なる個人的な要望が混在していたので、今後の地区社協の活動に関するアンケート調査であるという趣旨を、徹底すべきだったと思います。

<新保地区のデータ> (平成22年10月末住民基本台帳)

人	口：4,516人	世帯	数：1,721世帯
65歳以上人口	：771人	高齢化率	：17.07%
14歳以下人口	：700人		
事務局	：新保地区センター内	Tel	429-0001

地域福祉に関するアンケート（平成22年）

新保校区社会福祉協議会

問1 あなたの性別は。該当する番号に○をつけてください。

1. 男性
2. 女性

問2 あなたの年齢は。該当する番号に○をつけてください。（平成22年4月1日現在）

1. 20～39歳
2. 40～59歳
3. 60～79歳
4. 80歳以上

問3 あなたの世帯状況は。該当する番号に○をつけてください。

1. ひとり暮らし世帯
2. 夫婦のみの世帯
3. 夫婦と子の世帯
4. 単身者と子の世帯
5. 3世代世帯（祖父母・両親・子が同居）
6. その他（兄弟姉妹同居・親族以外の同居など）

問4 あなたは、どのようなことを手助けしてほしいですか。

該当する番号に○をつけてください。（複数回答可）

- | | |
|-------------|-----------------|
| 1. ゴミ出し | 8. 病院や公共機関への付添 |
| 2. 買物の代行 | 9. 地域行事等の送迎 |
| 3. 声かけや安否確認 | 10. 蛍光灯(電球)の取換え |
| 4. 話し相手 | 11. 除草 |
| 5. 買物の付添 | 12. 除排雪 |
| 6. ペットの世話 | 13. 暖房器具への給油 |
| 7. 子守り | 14. その他（ ） |

問5 あなたは、困ったときに気軽に頼める近隣の方はいらっしゃいますか。

該当する番号に○をつけてください。

1. いる
2. いない

問6 あなたは、近隣の要援護者や困っている方に対してどのような活動ができますか。該当する番号に○をつけてください。（複数回答可）

- | | |
|-------------|-----------------|
| 1. ゴミ出し | 8. 病院や公共機関への付添 |
| 2. 買物の代行 | 9. 地域行事等の送迎 |
| 3. 声かけや安否確認 | 10. 蛍光灯(電球)の取換え |
| 4. 話し相手 | 11. 除草 |
| 5. 買物の付添 | 12. 除排雪 |
| 6. ペットの世話 | 13. 暖房器具への給油 |
| 7. 子守り | 14. その他（ ） |

問7 あなたは、福祉情報をどのような方法で得ていますか。

該当する番号に○をつけてください。（複数回答可）

- | | |
|---------------|----------------------|
| 1. 市の広報とやま | 5. インターネット |
| 2. 新保公民館だより | 6. 地域の福祉関係者（民生委員など） |
| 3. 新聞やテレビ・ラジオ | 7. 地区センター・地域包括支援センター |
| 4. 近所の人や友人・知人 | 8. その他（ ） |

問8 あなたは、新保校区社会福祉協議会をご存知ですか。

該当する番号に○をつけてください。

1. 名前も活動内容も知っている
2. 名前だけは聞いたことがある
3. 名前も活動内容も知らない

問9 あなたは、新保校区社会福祉協議会が行っている事業をご存知ですか。

該当する番号に○をつけてください。(複数回答可)

1. ふれあい会食 (町内自治公民館で開催しているもの)
2. 健康作り体験教室 (健康パーク利用など)
3. 子育てサークルへの活動支援
4. 一人暮らし、高齢者世帯、母子父子世帯等への訪問 (激励・見舞い)
5. ふれあいサロンの普及促進と支援 (各町内の高齢者を交えたサークル「仲よしサークル、栗の実会、火曜会など10サークル」)
6. 愛と誠銀行事業 (寄付金の取り扱い窓口)
7. ボランティア活動の支援
(福祉関係施設、シルバーケア栗山、みどり苑など)
8. ふるさとづくり推進協議会事業への参加
(敬老会「福寿のつどい」、新保ふるさとまつりの福祉総合展など)
9. 車いすの貸出し

問10 今後、新保校区社会福祉協議会はどのような活動に力を入れていけばよいと思われますか。該当する番号に○をつけてください。(複数回答可)

1. 町内の福祉活動支援
2. 地域包括支援センターや民生委員等とのネットワーク活動
3. 町内住民のささえあいマップ作りの支援
4. ふれあいサロンなど介護予防に関する活動
5. 高齢者の生きがいに関する活動
6. 子育てサロンなど子育て支援に関する活動
7. ボランティア活動の支援・育成
8. 各種相談事業 (介護・子育てなど) の充実
9. 防災活動や災害時の助け合い活動
10. 福祉関係情報提供 (講演会や研修会等)
11. その他 ()

問11 新保校区社会福祉協議会に何かご意見があれば自由にご記入ください。

<hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>

ご協力ありがとうございました。

新保校区社会福祉協議会アンケート係

(2) 地区社会福祉たより「おしやい」の発行

野積地区社会福祉協議会 会長 小西陽一



<地区社会福祉たより「おしやい」>

◇活動の概要

地区住民の皆さんから会費をいただいていることや福祉に関心を持っていただくために、平成21年6月に第1回目のいきいきサロンを開催したことをきっかけに「たより」としてA4版の両面印刷をした広報紙を毎月地区各戸に配布しています。

「おしやい」とは昔、田植えなどお互いに助けあいをした言葉です。内容は、地区社会福祉協議会の行事、サロンやひとり暮らし高齢者訪問、施設訪問はもちろん、ゲートボール・グランドゴルフなどの活動紹介、また地域の福祉に関する行事、環境を守ること、施設ボランティア募集などを掲載しています。時には、市社会福祉協議会八尾支所が実施するやつおふれあいフェスティバルの記事や民生委員の活動内容、健康教室など多種多様に載せています。

◇活動の開始にあたって苦労したこと

◎継続して発行するために、編集の協力者を確保することに苦労してお

り、今後も人材を発掘していきたい。

◎地区住民等から一定の理解が得られれば、休刊や廃止しても良いと思
い気軽に始めることにしました。

◇活動の進め方（協力者の確保、PRの方法など）

◎主に、民生委員が中心となって行っているいきいきサロンの記事や写
真を掲載しています。

◎その他、地域の行事については、行事に参加している役員に協力して
もらっています。



<編集作業>



<掲載写真例>

◇活動上の課題・対応策

◎地区社会福祉協議会の行事が年間を通じて、似たような内容なので「た
より」も工夫しなければならないと考えています。

◎富山市と合併し「広報とやま」は遠い世界になりました。少しでも地
域のことをお知らせしようと企画しています。

<野積地区のデータ> (平成22年10月末住民基本台帳)

人	口：935人	世	帯	数：392世帯	
65歳以上人口	：352人	高	齢	化	率：37.65%
14歳以下人口	：78人				
事	務	局	：市立野積公民館内	TEL	454-3001

社会福祉法人富山市社会福祉協議会

本 所	〒939-8640	今泉 8 3 番地 1	TEL 076(422)3400
大沢野支所	〒939-2224	春日 9 6 番地 1	TEL 076(467)1294
大山支所	〒930-1312	上滝 5 2 3 番地 1	TEL 076(483)4111
八尾支所	〒939-2376	八尾町福島 2 0 0 番地	TEL 076(454)2390
婦中支所	〒939-2603	婦中町羽根 1 1 0 5 番地 7	TEL 076(469)0775
山田支所	〒930-2198	山田湯 7 8 0 番地	TEL 076(457)2113
細入支所	〒939-2184	榆原 1 1 2 8 番地	TEL 076(485)9008

平成 2 3 年 2 月 発行